

令和7年度第1回砺波地域医療推進対策協議会、砺波地域医療構想調整会議、
砺波地域医療と介護の体制整備に係る協議の場の合同会議

日時 2月17日(火) 14:30～

場所 オンライン(ハイブリッド)
砺波厚生センター講堂

<開会挨拶(有賀厚生部長)>

<議題>

- (1) 新たな地域医療構想について
(資料1 医務課 岩村課長より説明)
- (2) 医療計画中間評価について
(資料2 医務課 岩村課長より説明)
 - ・現在の医療計画の概略(資料3 医務課 岩村課長より説明)
- (3) かかりつけ医報告について
(資料4 医務課 岩村課長より説明)
- (4) 地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業について
(資料5 富山大学 小林客員准教授より説明)
- (5) 砺波地域医療構想の必要病床数と病床機能について
(資料6、7、8 砺波厚生センター松倉所長より説明)

<報告事項等>

○南砺市

- ・現在、南砺市では市立2病院の再編を検討しているところである。
- ・医療従事者の不足や増加する高齢者救急への対応など喫緊の課題に対応するため、南砺市立2病院の手術機能及び救急機能を南砺市民病院に集約し、へき地医療の維持を含めた持続可能な医療提供体制を構築することで、砺波医療圏の基幹病院である砺波総合病院を後方支援できる体制を整えたい。
- ・南砺中央病院においては、容体の安定した患者や長期入院が必要な患者の日常生活への復帰を支援するための機能を拡充していくこととしている。

- ・再編方針については、現在、市議会の特別委員会で協議しているところであり、今後、南砺市立2病院の対応方針について、具体的に再検討していく予定としている。

○市立砺波総合病院

- ・これまでの地域医療構想について、先ほど松倉所長が説明されたように医療圏の病床機能の目標病床数は以前から決まっており、当院の将来医療構想として、2018年から病床削減のプランを考えていたところであるが、コロナ禍以降、患者数の減少が想定よりも大きく、令和7年度に緩和ケア病棟の開設と1病棟の閉鎖を行うことで、471床を396床に減らした。
- ・来年からの新しい地域医療構想の新しいガイドラインでは、人口20万人を一つの基準として拠点病院を考えることとなっており、人口の少ない医療圏として新川と砺波が上げられている。
- ・砺波で急性期拠点病院を維持できるかどうかという課題もあるが、現在、総務省からのアドバイザーを入れて、将来構想について検討している。
人口20万人という基準はあるものの、交通機関や地域規模、病院の規模として現在、(年間)2,000台以上の救急車を受け入れていること、また地域周産期母子医療センターであり、2.5次救急を担っているという観点から、アドバイザーからは砺波総合病院は拠点型の病院として残るのがふさわしいと言われており、そういう考えで準備をしている。
- ・富山大学の小林先生からも(データで)示されたとおり、予約手術等の急性期患者が今後減少していく。急性期として生き残るために、減少した患者の枠で、高齢患者を受け入れていくということは現在の医療制度では難しいため、さらなる連携の強化や、病床減少で対応するなど、これから具体的に考える必要がある。
- ・現在、一つのクッションとなっている地域包括ケア病棟があり、(その病棟では)急性期を過ぎた後も更に1ヵ月間入院できるため、直ぐに退院する必要がなく、2ヵ月間入院が可能である。ただ、その地域包括ケア病棟を急性期病院で持つてはならないと国から言われており、(現時点では)激変を避けるため、臨時的に持つてもよいということになっているが、将来的にはだめということになる。そういう観点からも南砺市などとの連携が非常に大事になっていく。
- ・地域の皆さんや議員の皆さんからは(転院を前提とするのではなく)砺波総合病院で医療を完結してほしいとの意見が出ており、かかりつけ医からも同様の意見があるため、皆さんと協力して進めていきたいと考えている。

○南砺市民病院

- ・本院については、齋藤副市長からもお話があったとおり、議会で承認されれば、ER(救急医療)を含む急性期を担っていきたいと考えている。

- ・高齢者は 2040 年に向かって増えていく推計であり、高齢者救急をはじめとした入院治療や訪問診療を行っていききたい。
- ・小林先生がデータで示されたとおり、現状のまま公立 2 病院が残るとなれば、共倒れもありうることを懸念している。
- ・2 次医療圏で考えた場合、対応が難しい患者、特に手術を伴うような患者について、砺波総合病院で対応をお願いしなければいけない。
- ・人口推計が実際にどのように推移していくかはわからないが、砺波総合の 1 病院で全ての患者に対応するのは難しいと思われる。特に救急医療について、砺波総合から南砺市民も頑張ってもらいたいと言われており、なんとか手術機能を維持しつつも高齢者の救急・訪問等についても対応していきたい。

○北陸病院

- ・本院は認知症等、高齢の入院患者さんが多い施設である。
- ・他の病院で行われているような急性期に対応する機能はないが、認知症疾患センターを持っているので、高齢者への対応といった点で協力していきたい。

○北陸中央病院

- ・砺波医療圏の人口減少のペースは国が想定していたより速い。
- ・人口減少とともに患者数も減少しており、各病院の機能を縮小していくことは必須。
- ・(上記に伴い)各病院に勤務しているスタッフの配置について、検討する必要があり、将来的には統合もやむを得ないと考えている。
- ・砺波医療圏では砺波総合病院が中心となって地域医療を支えていくかと思うが、我々も(規模を)縮小しながらも支えていきたいと考えている。

<閉会>

砺波厚生センター 松倉所長